

住宅用火災警報器

～住宅火災による死者の減少に大きな効果を発揮中～

住宅用火災警報器の奏功事例

発見が遅れがちな就寝中の火災に効果を発揮！！

【たばこの不始末により出火 火元居住者は警報音で目覚め屋外へ避難】

たばこの不始末により出火 火元居住者は警報音で目覚め屋外へ避難 2階建ての共同住宅の2階に居住する男性は、住宅用火災警報器(以下、住警器という)の警報音と「火事だ！」という声に気付き、屋外に出ると、1階の部屋の窓から炎が出ているのを発見した。他の居住者と協力して、街頭消火器を使用して消火を試みたが、消火には至らなかった。

原因は、火元住宅に住む男性のたばこの不始末。たばこの火種がベッド脇の衣類に着火し、延焼拡大した。出火時、男性は就寝中であつたが、寝室に設置された住警器の警報音に気付き、屋外に避難。大声を出して周囲に火災を知らせた。

台所で調理中に「うっかりその場を離れる」が危険！！

【火にかけたまま放置されたフライパンから出火！ 警報音に気付き初期消火】

共同住宅に居住する男性が居間でうたた寝していると、住警器の警報音に気付いた。すぐに台所を確認するとフライパンから煙が上がっていたので、玄関に置いてあつた消火器で消火した。

原因は、調理中にその場を離れて、テレビを見ているうちに寝てしまったため、フライパンが過熱され食材から出火したもの。

